

韓国環境部プレスリリース 2020年3月12日付

環境部長官、江原（カンウォン）華川（ファチョン）、ASF 対応現場点検

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1351630&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

チョ・ミョンレ環境部長官は、3月12日午後、江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゲン）の野生イノシシ移動遮断フェンス、破虜湖（パロホ）一帯のASF発生地点および楊口郡（ヤンググン）非武装地帯（DMZ）通門防疫管理状況等のASF対応現場を点検した。

この訪問の趣旨は、今年1月以降、華川郡（ファチョンゲン）の野生イノシシの死体からのASFウイルス検出事例が増加し続けていることを受け、現場の管理状況を点検し、追加的対応方案を決定するうえでの判断材料とする、というものである。

※現在に至るまで、野生イノシシでのASFは、全国で349件発生している。そのうち138件は華川（ファチョン）での発生であり、感染個体が最も多く発見された地域となっている。

チョ・ミョンレ長官は、3段階広域フェンス設置現場と村地区間補完状況、破虜湖（パロホ）周辺の華川邑（ファチョンウプ）・看東面（カンドンミョン）一帯のASF発生現場を確認し、非武装地帯通門統制警戒所等ASF対応状況を点検した。

まず、華川（ファチョン）～昭陽江（ソヤンガン）～麟蹄（インジェ）間を連結する3段階広域フェンスの設置状態を点検し、村区間等に脆弱区間ができないよう速やかに補強することを要請した。

-また、フェンスドアの開閉状態を確認し、フェンスに瑕疵がある場合は直ちに修復する等、イノシシ移動遮断機能維持のためにフェンスを徹底的に管理するよう関係者に要請した。

-環境部は破虜湖（パロホ）以南華川（ファチョン）～昭陽江（ソヤンガン）～麟蹄（インジェ）間を連結する3段階広域フェンスを設置し、この区間に跨っている村区間の補強を進めている。

また、華川（ファチョン）で楊口（ヤング）、春川（チュンチョン）に接続している破虜湖（パロホ）および看東面（カンドンミョン）地域を訪問し、この地域一帯のイノシシでの ASF 発生状況を点検した。

-楊口（ヤング）、春川（チュンチョン）への ASF 拡散を遮断するため、追加フェンス設置および捕獲罠の配置拡大等、あらゆる手段を取り入れるよう指示した。

-環境部は破虜湖（パロホ）以南の地域と平和のダム南端の北漢江（プッカガン）に追加的に広域フェンス（32km）を設置中である。

チョ・ミョンレ長官は、最後に楊口（ヤング）21 師団統制警戒所を訪問し、軍関係者を激励し、非武装地帯通門から ASF ウイルスが広がる可能性に備え、民間制限線と非武装地帯通門を出入りする車両と人に対する消毒を徹底するよう依頼した。

-環境部が今年 2 月 5 日から 13 日までに実施した非武装地帯内の環境試料に対する分析の結果、試料 69 件中 2 件から ASF ウイルス遺伝子が検出された。

-これを受け、軍においても非武装地帯通門を出入りする車両等への消毒を強化しており、環境部は非武装地帯内のイノシシ棲息地に対する追加調査を実施する予定である。

チョ・ミョンレ長官は「華川郡（ファチョンゲン）は、今後 ASF 発生状況を安定化させることができるか否かを計る第一線地域であり、ASF の東南への拡散を遮断するために総力を挙げなければならない時にある」として、

「イノシシでの ASF 拡散を阻止する一次的防御線であるフェンスを徹底的に管理し、非武装地帯通門に対する防疫活動を強化してほしい」と依頼した。

以上